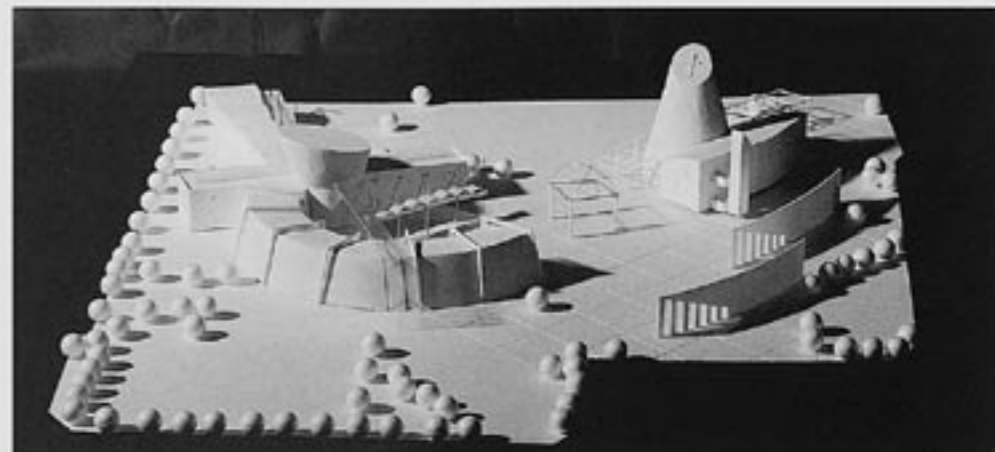
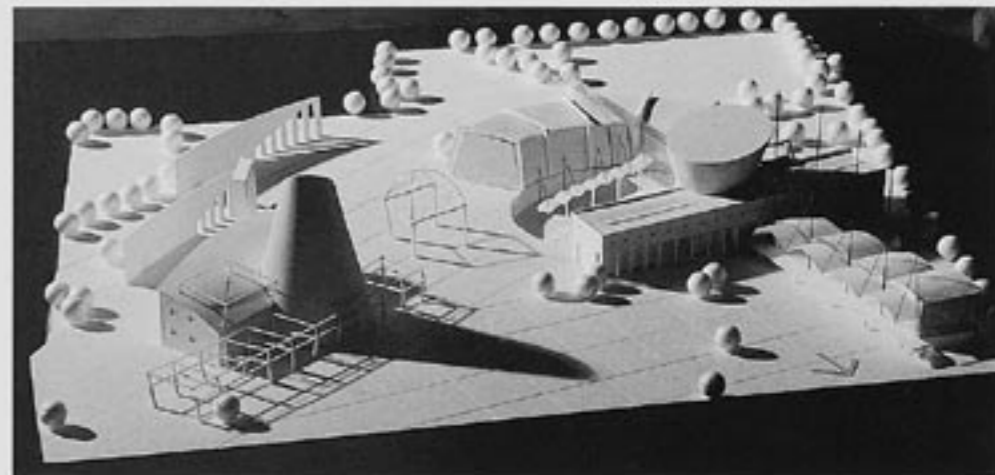


光の教区センター

朴 燦範



■設計主旨

社会から孤立されつつある教会、このような教会の行き詰まりの現象は、教会が地域性を失い、その地域社会とは何の関係のないものになってしまうからである。

21Cが始まろうとしている現在、教会はその地域人に対して扉を開く。教会が外に向かって扉が開かれることは、教会が常に実行している機能を教区内部の奉仕だけに限定させずに、全社会に対して奉仕を拡大することである。そしてその地域のコミュニティを構成できるように空間的な全体条件を造りださなければならない。

宣教センター計画構成の建築的意味

1. 中心となる多目的教会の建設
2. 多様な礼拝形式と洗礼や婚礼などの祝祭の業務を行なうのに相応しい諸空間の融通性
3. 最近の発達水準にある技術的に選ばれた設備（例、教会音楽、地域民集会、講演会、映画および劇の上演等）
4. 予備教育義務を負った子供達の教育と保護のため建築的な前提を要求する空間計画によって、本職の労働力のほかに、この問題についてパートタイムを利用して、才能のある地域民を実務的に教育すること（例、幼稚園、託児所、保育所等）。
5. 学校へ行っている、あるいは職業についている青少年の相談にのるために気軽に出席できる空間

